

六中だより



文責 宮川英樹

中学校の部活動について 〜種目を通じた人づくり〜

部活動の練習に一年生の姿が見られるようになりました。そのことで二、三年生は先輩であること自覚し、動きにも主体性が出てくるようです。

本校では、運動部に加えて文化系の吹奏楽部があります。どの部も大会やコンクール等に目標をおいており、そこでの「勝利」を目指してあります。

相手に勝つということは大変なことです。その前に自分に勝つ(克服)ことが必要です。勝負です。どちらかが勝てば一方は必ず負けます。時に勝負は「運」にも左右されます。

私は、勝利を目指して全力を尽くしたのであれば、結果は関係ないと思っております。

負けから学ぶことも多いですし、負けた時の態度がそのチームの力を表すとも思います。勝てた時は、自分たちがやってきたことを試すチャンスがもう一回あると考えることができます。

種目には特性があります。例えばバレーにはバレーの、野球には野球の種目もつ特性があります。ミスを含んでカバーするよすに動いたり、仲間の動きに合わせて自分の動きを考えたり、本来の状況でやらない役割でもチームの状況でやらなければならない

ったり、いろんな学びの要素がどの種目にもあり、そこでは、授業では学べない実生活に結びつく力が育つと思います。

私は、部の担当をしていて、大会で優勝することも嬉しいことですが、自分の担当する部の生徒が「挨拶がよくなった」「授業中よく発言をするようになった」「掃除を頑張るようになった」などと普段の生活での成長を褒められた時の方が嬉しかったのは事実です。また、部員が普段の学校生活を頑張りました時は、自然と戦績も上がっていました。

普段の学校生活を充実させることが、取り組む種目の成果を上げる大きな要素だと思えます。保護者の皆様には、学校教育における部活動は「種目を通して人づくり」ということをご理解いただきたいと思います。

以前、サッカーワールドカップのロシア大会で、決勝トーナメントでベルギーに負けた日本代表が、試合後ロシア語を綺麗に掃除して、ロシア語で「ありがとう」というメッセージカードを残したことがネットでも話題になりました。

以前日本サッカー協会の田嶋会長の話をお聞きする機会がありました。田嶋会長によると、国際大

会で試合後ロッカーの掃除をする行為は、毎回やっていることなんだそうです。しかも、なんでもの日本代表がやっていることなんだそうです。みんな、この行為をあたりまえのようにやっているとのことでした。田嶋会長は、「選手たちは、これまでに部活動(クラブ)でそのような指導を受けてきたからこのようなことが普通にできる」とおっしゃっていました。部活動だけでなく、地域のクラブチームでも日本のスポーツは、フェアプレーの精神とともに、普段の生活を重視しているところがいいところであると思います。



熊本県リスクレベル5【厳戒警報】における対応について

新型コロナウイルス感染拡大の予防のために、学校でも対策を行ってまいります。保護者の皆様にも引き続き御協力をお願いいたします。

(1) ご家庭では(職員も同様)

- ・同居家族の毎朝の検温をお願いします。
- ・同居家族に発熱やのどが痛いなどの風邪症状がある場合は、自宅待機をお願いします。
- ・同居家族に検査を受けることが決定されたり、濃厚接触者とされたがおられたら、すぐに学校へ連絡をお願いします。

(2) 学校では(生徒も、職員も)

- ・授業中は換気を行い、全員がマスクをします。冷房中は加湿空気清浄器をフル稼働させます。
- ・1日1回の机や椅子、ドアノブ等の消毒を行います。
- ・登校時を含め、活動の度に手の消毒や手洗いを行います。
- ・部活動では、公式戦以外の練習試合等の他校との交流を休止します。
- ・2, 3年生の給食は2ヶ所に分かれて食べます。また、全学年向かい合わないで食べます。
- ・職員室では、向かい合う机の間にビニールシートを張ります。
- ・5月に実施予定の3年生の修学旅行は9月に延期します。
- ・県のリスクレベルが下がらない場合は、1年生の集団宿泊を延期します。